



東北大学

集中講義

〈天皇〉から 考える日本学



講師：茂木謙之介（足利大学講師）

近現代の天皇とそれを取り囲むシステムとしての天皇（制）は、「日本」を考えるに際して不可避のテーマだが、同時にさまざまな力学の絡み合うことに由来する問いの困難さも内在させている。本講義では近現代天皇（制）をめぐる表象文化史を中心的な素材とし、表象文化論・メディア史・文学研究等の学知を参照しつつ、検討する。その過程は同時に近現代日本を学際的に問う日本学の方法を考究するものともなるだろう。学習の到達目標としては、近代天皇(制)の表象について、基礎的な知識を共有することができる。一つの検討対象について多角的なアプローチが可能であることを理解し、それを実際に運用することができる。

授業内容

1. イントロダクション
2. 前近代の天皇と近代の天皇
3. 近代天皇像の形成
4. さらされる身体
5. 〈御真影〉という装置
6. 検閲というシステム
7. ワークショップ「天皇制の近代と宗教」①
8. ワークショップ「天皇制の近代と宗教」②
9. ワークショップ「天皇制の近代と宗教」③
10. 僻地と国民国家
11. 消費社会とファッション
12. 危機と奇跡
13. 〈人間天皇〉とその周辺
14. 皇族の神格化と地域社会
15. まとめ

※第7～9回は、茂木謙之介先生を含む研究者が登壇し、本科目の一環として開催されるワークショップである。



講師紹介:

1985年生まれ。2016年11月、東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。博士(学術)。現在、足利大学共通教育センター講師。専攻は近代日本のメディア、文学、宗教。著書に『表象としての皇族——メディアにみる地域社会の皇室像』（吉川弘文館、2017年）他。印度学宗教学会賞（2018年度）など受賞。

日時

2018年8月2日から7日

教室

国際文化研究科101会議室

主催：国際文化研究科(国際日本研究講座)

※文学研究科、教育学研究科、法学研究科などに所属する大学院生も、履修登録・単位取得できます。関心のある方は、国際文化研究科の「日本研究基礎論Ⅱ」(KIC-ARS631J) (集中講義科目)に、7月19日までご登録ください。

問い合わせ先

国際文化研究科クラウタウ研究室

klautau@tohoku.ac.jp